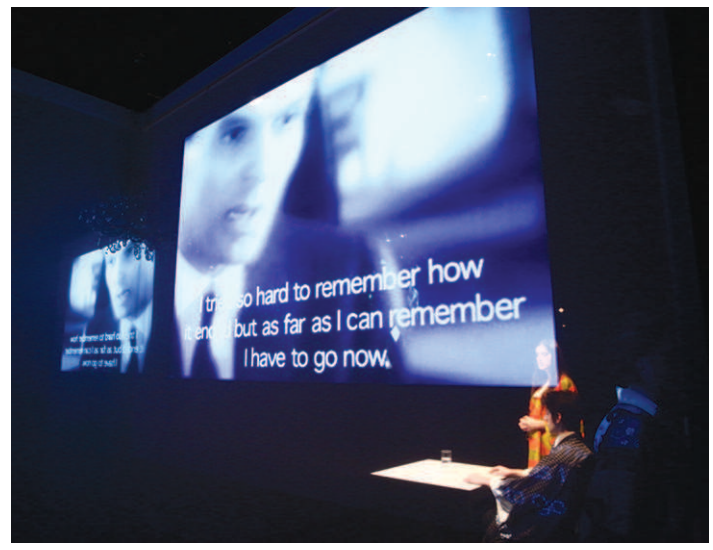
遥か遠くの傍観者

川村毅とジョン・ジェズラン
ラマで16日から



日本の現代演劇界を代表する劇作家で演出家の川村毅と米国人で数々の演劇賞受賞歴のある劇作家で演出家ジョン・ジェズランが16日（土）から4月1日（日）まで、イーストビレッジにあるラ・ママ・実験劇場エレン・スチュワート・シアター（東4丁目66番地）で、「Distant Observer（遥か遠くの傍観者）：東京／ニューヨーク往復書簡」を上演する。

4年越しのコラボレーションは、東京とニューヨークで何度もリーディングワークショップを重ねて川村とジェズランが書き下ろした作品。出演は、アナスタジア・オロウィン、団こと葉、クレア・バッキンガム、カイル・グリフィス、アシュエム・イム。翻訳は小川あや。

川村は作品の内容をこう語る。「殺人を犯して服役していた青年が10年ぶりに出所してくる。青年は東京にも見えるし、ニューヨークとも思える都市でさまざまな人々に会い、さまざまな職業を体験していくうちに、行き場を失い、森にたどり着いて彷徨うが、その森には国家規模の秘密が隠されていた…」

川村は、1980年に劇団第三エロチカを結成、86年には「新宿八犬伝 第一部」で第30回岸田國士戯曲賞を受賞。2002年に自作戯曲上演プロデュースカンパニー「T factory（ティーファクトリー）」を創立。13年、「4four」で第16回鶴屋南北戯曲賞、芸術選奨文部科学大臣賞受賞。ジェズランは、1986年にオービー賞受賞。これまでにマッカーサー財団、ロックフェラー財団、アジア・カルチュラル・カウンシルなどからフェローシップを受けている。客員教授として東京大学と京都造形芸術大学で教鞭をとった経験がある。

本公演は、国際交流基金パフォーミング・アーツ・ジャパンプログラム支援事業で、公益財団法人セゾン文化財団国際プロジェクトの支援を受けた。

入場料は、大人25ドル、学生・シニア20ドル。公演日時は木～土曜は午後8時、日曜は午後4時。19日（月）午後8時。18日（日）は公演後に川村らのトークあり。ウェブサイトhttps://webovationtix.com/trs/pr/984131/prm/SEIKATSUからコード「SEIKATSU」を入力すると本紙読者5ドル割引き。

銘酒二百種
酒蔵 SAKAGURA
☎ 212-953-SAKE
sakagura.com
211 E. 43rd St. B1F
(Bet. 2nd & 3rd Ave.)

シネマ映写室 MOVIE

思惑と現実との接点

Thoroughbreds

コネティカット、アッパークラスの女子高生二人が描く夢想と、結果として到達する現実。「The Feast」の劇作家コーリー・フィンリーの脚本らしく会話の中の表と裏が巧みに交差するダークなスリラーだ。音楽、効果音の使い方もわざと舞台風にアレンジし場面の臨場感を押し上げる。フィンリーの監督デビュー作でもある。

主役には「ウィッチ」（14年）で美少女の魔女を演じ俄然注目を浴びたアニャ・テイラー＝ジョイと「Ouija」（呪い殺す、14年）のオリヴィア・クックといういずれもホラー映画で躍進した若手女優二人。

ルックスも雰囲気も全く異なる二人のやり取りには二重三重の「思惑」が潜む。大半は心理スリラーだが過激なシーンも出てくるしコミカルなキャラクターを登場させることで物語の幅を広げる。沈鬱ムードで進む中、一作年、27歳で事故死したアントン・イェルチンが気の小さい小悪党役でうまい具合にユーモアを加味する仕掛けだ。

リリー（テイラー＝ジョイ）とアマンダ（クック）は子供のころはよく一緒に遊んだがそれぞれ別の学校に進み長い間、交流がなかった。来年は大学進学という頃、アマンダの母親が娘の成績を心配してリリーにアマンダの勉強相手になってくれないかと頼む。むろん有料で。

リリーは容姿端麗で頭もよくいかにもハイソのお嬢様風。豪邸に住み、小遣いにも不自由せず恵まれた生活を送っているように見える。が、実は人知れぬ悩みがある。母親の再婚相手、つまり義父が大嫌いなのだ。理由をあげたらきりがないほどだ。一方、アマンダはある出来事をきっかけに心が折れてしまったのか、喜怒哀楽を感じない人間になってしまっている。

二人は初めこそ違和感あり過ぎで居心地の悪さを感じていたがお互いが率直に話すうちに共有できる何かを感じ始める。リリーの心の底に渦巻いていた黒い殺意をアマンダが引き出し、アマンダの誘導と励ましでそれが現実味を帯びてくるのだが。

少女らの他愛もない会話の流れに乗り一気に驚嘆への結末へともつれ込むスピード感ある展開がいい。1時間半。R。（明）

■上映館■
Regal E-Walk Stadium 13 & RPX
247 W. 42nd St.
AMC Loews Lincoln Square 13
1998 Broadway
Cinepolis Chelsea
260 W. 23rd St.

リリー（テイラー＝ジョイ、左）はアマンダ（クック、右）に親近感を持つ

photo : Claire Folger / Focus Features

動画予告編
デジタル版www.nyseikatsu.comで右の写真をクリックすると動画で予告編がご覧になれます。

意見広告　●海外から歴史問題を考えるシリーズ　6

慰安婦問題　フェイクニュースと事実

世界では多くの人が慰安婦についてこう信じています。

「第二次世界大戦中に、残虐な日本軍は少女を何十万人も誘拐して強制的に慰安婦という性奴隷にした。その多くが拷問を受け、殺され、死亡した。日本軍の犯した性的人身売買、戦争犯罪である」

なぜこうなったのでしょうか。その原因の一つはメディア報道です。

▽ロイター（1月8日）「慰安婦は日本の戦時中の売春宿で働くことを強制された少女と女性の婉曲表現。20万人もの韓国女性が売春宿で強制的に働かされた。」

▽ドイチェ・ヴィレ（独）（1月12日）「朝鮮半島占領1910年から終戦1945年の間、日本軍の戦線の売春宿で働くことを強制された女性」

▽ストレイツ・タイムス（シンガポール）（1月11日）「8～20万人の女性で、ほどんとは朝鮮半島出身だが、中国、台湾、東南アジア出身もいた。戦時中に日本帝国陸軍に性を提供するために雇われた。」

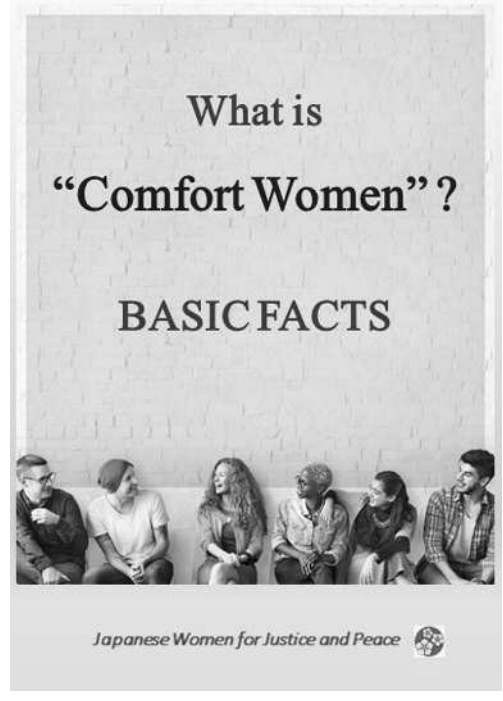
▽朝日新聞英字（1月9日）「元慰安婦とは、戦前戦中に日本軍に性を提供することを強制された女性。多くは朝鮮半島出身。」

▽ジャパン・タイムズ（1月10日）「慰安婦とは日本軍の売春宿で働くことを強制された女性」

さて、正しい説明はあるでしょうか？

一つもありません。正しい「慰安婦」については、1月20日号の目良浩一氏の「慰安婦とは何か」をぜひお読みください。

問題なのは、どの記者やジャーナリストも、ちゃんと調べずに過去の記事を引用したり、思い込みで慰安婦についての説明文を書いていることです。中には日本人記者が書いている記事もあります。日本語の資料が読めるはずなのに調べない、または意図的に日本を悪く書いているとも思われます。どの記事にも共通しているのは「強制」、「性奴隷」そして「日本軍が女性に酷いことをした」というイメージです。どのメディアを見てもそう書いてあるので、ねつ造「慰安婦」がますます浸透し、拡散していくのです。



こんな状況になってしまったのは、長年日本政府が事実関係に反論せずに、曖昧な表現や政治的妥協で謝罪してきたことが原因です。日本政府も今変わってきましたが、まだまだです。海外への情報発信がもっともっと必要です。

嘆いてばかりもいられないので、民間でもできることをしよう、ということでなでしこアクションでポケットブック（小冊子）を作成しました。タイトルは英語版「What is "Comfort Women"? BASIC FACTS」、日本語版「慰安婦問題ってなに？基本的な事実」です。

慰安婦問題なんて、そもそも一般の人は興味ありません。外国人であればなおさらです。分厚い難しい本も読みません。だから超初心者を対象にとてもやさしく作りました。Q＆Aの会話形式で簡単な文章です。図や写真もたくさん入れました。はがきサイズでオールカラー全32ページです。

入手ご希望の方は、「なでしこアクション」のHPで詳細をご覧ください。ぜひこの冊子を皆さんに活用していただきたいです。フェイクニュースに惑わされずに、多くの人が慰安婦問題を理解するきっかけになればいいなと願っています。

なでしこアクション
代表　山本優美子

なでしこアクション Japanese Women for Justice and Peace
http://nadesiko-action.org